

第7回 多文化共生と仏教 ～海外開教区の事例から～

教職員を対象とした本プログラム。今回はハワイから多文化共生についてお話を伺いました。



講師 エリック松本さん 浄土真宗本願寺派ハワイ開教区総長

日時 2021年11月18日(木) 13:30～15:00

場所 オンライン(参加 29名)

動画 https://youtu.be/Z7s6DB_VjEU

皆さんこんにちは。ご紹介にあずかりましたハワイ開教区の松本です。本日はこのような機会をいただきましてありがとうございます。私のようなハワイの田舎のコーヒー農家に生まれ育った者が、日本の大学院まで行かせて頂き、そして今の職に就くことになるとは夢にも思っていませんでした。その中で何よりもありがたく嬉しいことは、仏教、浄土真宗の普遍的な教えに出会ったことです。2回の龍谷大学への留学経験で、おかげさまでこれまで様々なご縁をいただくことができ、多くの人にお世話になりご指導いただきました。改めて心からお礼申し上げます。

さて、今日与えられた「多文化共生と仏教」というテーマについて、まず結論から申しますと「浄土真宗を含む、仏教のみ教えを根本にして進む」ことが多文化共生につながると考えています。仏教の教えと精神に基づいて特に仏法僧の僧(サンガ)の重要な役割を強調したいと思います。西洋、特にアメリカにおいては、「仏教と日常生活の関わり」について、あるいは「仏教をどう生きるか」という話をすることがとても大事です。

すでに100年前に、ハワイ教団(浄土真宗本願寺派ハワイ開教区)の二代目の総長(監督)であった今村恵猛(いまむらえみょう)開教使が、アメリカで伝道布教するには5つのことが大事だと明らかにされています。それは次のようなものです。

①浄土真宗の門徒として、他の人に批判されても恐れないで如来より賜りたる御信心はいかに深いものであるかについて考えなさい。

②自分が仏教徒であることの理由として、家の宗教だからという理由を超えて、もっと個人的な理由を自分で持ってください。

③宗教を選ぶ際には、その宗教が自分だけでなく他の人にとって、どのような良い結果をもたらすかをよく考えてください。

④どの宗教も存在する理由があることを理解してください。

⑤浄土真宗の伝道をとおして、アメリカで生活する人々の日常生活と社会の中で、その教えがどのように人生をより良く充実したものにすることができるかということについて、具体的に説いてください。

残念ながら、このように今村総長が100年前に私達ハワイ教団を指導してくださったにもかかわらず、現在のハワイ教団は今村総長が思っていたほどそれを全うできずに今日まで至っているように感じられます。そこで最近もう一度、ハワイ教団として、そのようなことについて力を入れていただいているところです。なぜかと言いますと、アメリカでは、宗教は救いを説くだけでなく、何らかの形で社会向上に貢献することがその存在理由となっているからです。一般に、人や社会を良い方向に導いていくのが良い宗教とされています。もちろん、そのことは宗教の第一の目的ではありませんが、教えに触れ、知恵と慈悲に導かれて、もっと教えにかなう生き方をすることによって、そのようなことが自然に社会に現れてくるのだと言えます。

浄土真宗では、本願を信じ念仏する者は、阿弥陀仏の大悲に、感謝の心と自分の愚悪に対する深い慙愧(ざんぎ)の心が呼び覚まされてくると説きます。その感謝と慙愧の心が原動力となって、力の限り身を慎み如来の大悲に応答しようとする新しい生き方がはじまる。端的に言えば、私どもの日常生活は自己中心的な言動がくり返されていますが、その中で、それを如来の大慈大悲のみ心に立ち返って見直すという、心の転換が起こってくる。人間の心で見ると愛すべきものと憎むべきものとが分かれて対立しているが、如来は皆平等にかけがえない存在としてみておられる。そこから見れば、私たちは互いに兄弟であり御同朋であることに気づくようになる。そしてわずかずつであっても反省し、煩悩を厭(いと)い如来のみ心にかなうようなものの見方や生き方を

するようになるということです。

私がハワイ教団の総長として、教団の活動においてよく参考にするのは仏教の教えの中にある、教団を栄えさせる七原則の中にある「人びとを愛し、来るものを厚くもてなして、病めるものは大事に看護する」という教えです。まずそのことに関連して、ハワイ教団の最近の取り組みとして、いくつか具体的な例をご紹介します。

一つ目は、ハワイ教団は、正式に同性結婚に賛成を表明しています。そのことを総長としてハワイ州議会の議員の前で証言いたしました。そして、多くの地域や団体・組織と協力しあい取り組んだ結果、2013年にハワイ州では同性婚が法的に認められるようになりました。

二つ目として、親鸞聖人のお手紙にある「世の中安穏なれ仏法ひろまれ」というお言葉に導かれて、世界平和に力を入れてきました。たとえば、教団が設立した高等学校であるパシフィックブディストアカデミーのカリキュラムにおいて平和学習を必修科目としました。また、ハワイ教団の仏教青年連盟が提案してハワイ州議会を動かし、国連が定めた「ピースデー」を、ハワイ州がアメリカ合衆国の中で一番早く正式に認めることになりました。さらに最近では、ハワイで行われた真珠湾の戦闘に関連する慰霊行事に参加し、平和へのメッセージを発信しました。特に大変評判になったのが小中高の生徒によるミュージカル『Peace On Your Wings』の上演です。オハナアーツという団体と協力し、広島の子のモデルとなった佐々木禎子さんにスポットを当てた若者によるミュージカルで、ハワイ全島を回り、さらにロサンゼルス、ニューヨーク、サンフランシスコのベイエリアなどでも公演をしました。今後、日本公演も是非実現させたいと思っています。

さらに、皆様もご存知のように、最近アメリカでは、人種や移民に対する差別、宗教差別、銃による暴力事件の増加などが問題となっています。ハワイ教団では、総長名で平和的・仏教的な反対声明を出しました。

そのほか、昔からよく知られているホノルルのモイリイ本願寺から始まったNPO活動に「プロジェクト・ダーナ」があります。プロジェクト・ダーナは、布施（ダーナ）の精神を根本とした年配の方々と体の不自由な人々を援助する活動です。今ではハワイ州全島にわたる宗教や宗派を超えたインターフェースの組織となり、地域の団体も加わるような広がりをもっています。ハワイは日本と同様に高齢化が進んでいます。高齢社会になるにしたがって、看護や介護に悩み苦しむ人たちが増えています。治療や医療以外の面から、少しでもそういった人を援助していきたいというのがプロジェクト・ダーナの願

いです。

そして最後に申し上げたいのはハワイ教団の人間国宝のプログラムです。そろそろ50年目を迎える伝統あるプログラムで、伝教大師最澄の国宝の定義（山家学生式）から着想し、日本の人間国宝をモデルにしてハワイ独自の『Living Treasure of Hawaii』として、毎年数名を選び表彰式を行っています。表彰式には400～500人が参加し、一番多い時には1000人近くの参加を得て表彰式を行いました。ハワイの人間国宝は、文化的なものに限らずあらゆる分野の人を選んでおります。何よりも大事なことは社会向上への貢献と、その人が得意とする分野の知恵・知識・伝統を次の世代に活かしていく活動です。去年はコロナのため大勢集まることができませんでしたが、初めてテレビ番組として放送しました。ご覧になりたい人は、ハワイ教団のYoutubeチャンネルで視聴していただくことができます。

[Honpa Hongwanji Mission of Hawaii](https://www.youtube.com/c/HonpaHongwanjiMissionofHawaii)

<https://www.youtube.com/c/HonpaHongwanjiMissionofHawaii>

このようなプログラムを実践することによってハワイ教団は社会向上などを援助し仏教、浄土真宗も社会にとって大切な宗教であることを教団内外に発信しています。というのは、ハワイでも日本と同じくお寺の活動はお葬式と年忌法要のイメージが強く、死者を中心とした宗教として見る人が多いからです。ですから、浄土真宗は「生きる力になりますよ」というメッセージを送りたいと考えました。

多くの人にとって日本のイメージは、お寺がたくさんあって素晴らしい美術品や建築やお花とかお茶の文化などがあって栄えているというものです。けれどもその一方で、日常生活の中で、特に人々の悩みや苦しみの解決のところで仏教の関わりが薄くなってきているのではないかと思います。言うまでもなく仏教という苦しみは、生老病死の究極の苦しみです。ただ私たちは今、日常生活での家族の問題、ビジネスや社会の問題、さらには地球が持つ様々な問題にも目を向けることが大切ではないでしょうか。仏教は娑婆、現実の世界を超える教えですが、私は決して娑婆に背中を向けてノータッチと言っているわけではないと思います。これから大事なことは仏教の思想や価値観などを日常生活のところに寄せながら、尊い悟りを得る、お浄土に生まれるという一番大事な根本の教えを伝えていくことです。

浅はかな私ではありますが、これまで、仏様やみ教えの話はたくさんしてきたと思います。しかし僧（サンガ）のあり方、つまり一人ひとりの生き方の

話はあまりしてこなかったのではないかと反省しています。現在の本願寺のご門主はそのことに気づかれ、「念仏者の生き方」と「私たちの誓い」をお書きになりました。もちろん世の中にはいろいろな考え方や視点などがあります。宗教も含めて、世界観、価値観は人それぞれです。そして自分の価値観の枠の中で物事をとらえ行動してきました。しかし世の中は実に多様です。忘れてはいけないのはそのような多様性の中に仏教も存在していることです。私はそのような多様性の中にこそ、仏教が貢献できる大きな可能性があるかと確信しています。仏教は多様なアメリカ社会や文化に対して、さらに深く広い視野をもたらす改革するほどの力があると考えています。

龍谷大学は教育機関として、言うまでもなく教育や研究の最先端の情報や知識などを学生や各学会で提供しなければなりません。学生は、「これを勉強したい」、「この大学だったらたくさん学べる」ということ考えて大学を選びます。ですからどの学部にしてもしっかりとプログラムを持つことが大事であることは言うまでもありません。ただそこには過去に明らかにされた研究成果や情報だけでなく、未来に向けての新しい地平線を示していくことも大切だと思います。

もちろん龍谷大学ではすでに対応されていることではありますが、大切な視点だと思いますので強調のためにあえて申します。それは仏教の視点です。これからは仏教や浄土真宗も文学部の専門学科だけでなく、もっとそれ以外のさまざまな学部と密接な関係を持って、協力し合ってさまざまな研究や実験を進めていってはいかがでしょうか。

現在、西洋におきましても仏教の教えや仏教の教えに根ざした行い、例えばメディテーションの実践がもたらす人間人格の変革、あるいは最近では感謝に満ちた人生を送るとどうなるかといった研究が行われています。とても面白いと思いました。そのような「ご恩」や「感謝」については、すでに800年の昔から浄土真宗で大いに説かれてきたことです。これからは仏教の思想やものの見方の方が世の中に必要と考える人たちが増えていきます。アメリカにおいてもすでに仏教的な要素を取り入れたカウンセリングや、医学と宗教の両者を取り入れた患者さんのケア、心と体を共に両方を看護するなどのニーズが高まっています。最近は仏教とビジネス、仏教と経済ということもよく耳にします。ここでは龍谷大学は大きな貢献ができると思います。人間の欲望を満たすためではなく、苦しみを少なくするために、また人類の向上、地球環境など、あらゆる「いのち」がもっと安全に安定した将来を迎え、そして互いに尊敬し認められて共生できるように。私は開教使を

させて頂いておりますが、確信をもって大いに仏教、そして浄土真宗も西洋の文化文明に大きなポジティブな変化をもたらすことができていると思っています。素晴らしいのは仏教、特に浄土真宗の自己を振り返るところ、そして一切を平等に見るところです。最も大事なものは、み教えに導かれて私たちが生きることです。そこに龍谷大学と他の大学との違いがあらわれます。世俗の価値観だけで動くのではなく、仏教の一切を含む智慧と一切を抱く慈悲に導かれているのちを、私のため、あなたのために、分け隔てることなく自利利他の考えを根本にして生きていけるのです。

今、私の一つの悩みは、浄土真宗が説く「生かされている」をどう英語で表現をして、アメリカの人に伝えることができるのかということです。短くてわかりやすい英語の表現がないのです。というのは、言語は文化に影響されてできているからです。西洋では「生かされている」という思想、考え方は主流でないため良い表現が存在しないことから、単語をたくさん並べて説明しなければいけません。パッと一言で分かってもらえる単語表現が欠けているのです。

そのことに気づいたのは、もう30年ほど前に日本からアメリカに戻って、食前の言葉を唱和している時でした。アメリカでは宗教を大事にしている証の一つとして大きな行事や大勢が集まる晩餐会のはじめに宗教的な言葉や食前の言葉を捧げる習慣があります。おかげさまで総長になってから数多くの他の地域の組織、団体、政府機関の行事で宗教的な言葉や食前の言葉を唱えさせて頂いております。もちろん私は仏教に基づいての食前の言葉をし、生かされていることを強調し、動物と植物も尊いいのちである、そしてそれを頂いて感謝の気持ちや、「もったいない」の気持ちを忘れないようにしましょう、というような意味で食前の言葉を頂いていました。ただ、日本ではごく当たり前の考え方もかもしれませんが、西洋においては主流の考え方ではありませんので、びっくりしたり仏教の深さに感銘したりする人も少なくありません。私たち凡夫には限りはありますが、感謝に励まされて理想を目指すには限りはありません。

私は親鸞聖人のお手紙である「御消息」の中に、私たちがどう生きるかどういう風に人と接していくかの大きなヒントがあると思います。私たち一人ひとりがどう生きるかによって私たちを取り巻く環境社会が出来上がります。龍谷大学の環境はどんなものでしょう。学生たちが龍大で学ぶ中に何を味わって何を経験しているのでしょうか。龍谷大学に来てもらい、龍谷大学のサンガに触れる中で、人間形成に大きく影響を与えるものがあると思います。ま

た、それが私自信の経験でした。

ここで、アメリカの詩人マヤ・アンジェロウ (Maya Angelou) の言葉を少しご紹介させていただきたいと思います。

People will forget what you said,
people will forget what you did,
but people will never forget how you made
them feel.

人々はあなたが言ったことを忘れます。

人々はあなたがしたことを忘れます。

しかし、人々はあなたによって感じたことは決して忘れません。

これは本当だと思います。特に年月が経つと、そして年を取ると多くの細かいことを忘れやすくなります。しかし気持ちとか経験したことはなかなか忘れません。ずっと残るものです。

ここで少しハワイの話をさせて頂くと、ハワイは住みやすく過ごしやすいとよく言われます。確かに気候が穏やかで緑の山や青い海が身近にあって実に綺麗ですが、それだけではありません。ハワイのもう一つの美しさはアロハの精神です。英語で言うところの『ALOHA Spirit』です。アロハの言葉は単なる挨拶ではありません。アロハという言葉に深い意味が含まれています。アロハという単語の一つひとつの文字に意味があるのです。ALOHA の最初の『A』の文字の意味は思いやり親切の意味です。ALOHA の『L』の文字は統一、調和という意味です。ALOHA の『O』の字は礼儀または賛成するという意味です。そして ALOHA の『H』は謙遜や素直な心を意味します。最後の『A』の字は忍耐を表しています。ハワイのアロハの言葉にこれらのたくさんの意味が含まれています。これらの、思いやり、統一、礼儀、謙遜、忍耐は、人と人とが接する中に生きてくるものです。ただの理想でなく、これらを行動に表すことによってアロハが真に意味ある言葉になります。浄土真宗に何かちょっと近いものを感じさせるものがあります。

Aloha is to learn what is not said, to see what cannot be seen and to know the unknowable.

アロハとは語らざるものを知り見えざるものを見、不可知なものを知ることです。

とても意味深いものを感じさせませんか。ハワイの文化、社会はこのアロハの精神に大きく影響されています。多くの人々を導いています。

一つの実例を挙げますと、ハワイでは色々な宗教者同士が簡単に集まります。そして社会問題や人々

の苦しみに対応するために協力し合って力を合わせることが多くあります。何故これが可能かと申しますと私はこの ALOHA Spirit アロハの精神が理由だと思います。宗教にはそれぞれの違いがあり、互いにそれを認めます。しかし共通の目標・目的を願っている部分もあります。ハワイの異教徒同士が互いに失礼のないように一緒に仕事をし、協力し合っていきましょうという気持ちは、このアロハの精神のおかげだと思います。

ちょっと余談になりますが、このアロハの精神は実はハワイでは法律です。ハワイの法律の中に正式に記録されているのです。ハワイの公務員はアロハの精神に基づいて仕事をし、人と接するようにと書いてあります。みんなが誠実にこれを守っているわけではないかもしれませんが、それでも言えることはアロハがこれだけの重要な役割を果たしていることです。ただ先に申しましたように文章や思想としてあるだけでは不完全です。やはり人々がアロハを生きる、表すところに本当の意味があります。ハワイでは『Live ALOHA』という表現があります。アロハ精神は生きるものです。

日本にも似たような現象があると思います。日本人は礼儀正しくてそしてサービス精神が凄いと評判ですし、もちろん食べ物も美味しいです。私は日本でのおもてなしの心を今思い出しています。日本のおもてなしの心は大いに仏教の精神や価値観に基づいていると聞いたことがあります。おもてなしについては私よりも日本の皆様の方が詳しいのでこれ以上は申しませんが、でも一言、今日のテーマである多文化と共生に寄せて関連することを申しますと、たとえば日本では多くの人がお酒を飲むことがとても好きです。飲むのが文化であり一つの価値観と言うのは言い過ぎかもしれませんが、確かに飲むことが飲まないよりも良いとされているように思います。昔の中国に書かれた資料に「日本人は酒好き」と記録されているほどですから。しかし現在はお酒を飲まない人もけっこう増えています。

また、ちょっと話が広がりますが接待の場もそうですが仕事場でも行動には気をつけなければなりません。特にアメリカのようなたくさんの人種と文化がある国では誤解を与えないように自分の行動を注意深く考えなければなりません。人によって文化によってユーモアは何が適当で何が不適当であるかがまちまちなので相手に失礼のないようにする配慮がとても大事なのです。例えば片方は親しみを込めて挨拶のつもりのハグを思っても相手はそれ以上に受け取ってしまうことがあります。そうするハラスメントになりかねませんので気を付けなければなりません。お互いの文化や習慣などを知ることがいかに大切であるかということを、このことは示してい

ると思います。互いを尊敬することがとても大事です。

仏教はそのようなことをずっとやってきたように思います。そう簡単ではないかもしれませんが、こういう仏教の教えを仏教系大学としてもっと表に出していいのではないのでしょうか。龍谷大学の特徴として、教育機関として国によって定められた法律と規制を守り、学生の改宗が目的ではありませんし、人を強制するのも仏教のやり方ではありませんので、信教の自由を大切にしつつ、仏教の精神をより自然にお互いに分かち合う方法があるのではないのでしょうか。教職員の皆さんやスタッフの方々が仏教用語を覚えなければいけないということではありません。

一例として、たとえばアメリカでいま流行っている「マインドフルネス」から学ぶことができるように思います。「マインドフルネス」はもともと仏教から来ていますが、「マインドフルネス」をアメリカに紹介した人たちはわざと仏教用語は使わなかったと聞いております。一般の人にとってはこの方が多分受け入れやすいと考えたからでしょう。多くの人に受け入れてもらって初めて社会変化、社会の向上が現実となります。人々の生き方に根付くことが大事です。言うまでもありませんがアロハ精神も同じです。言葉で人に教えることがあるとしても、人がハワイに住んでいる人たちに接する中で感じて、そして自分も身にもつけることの方がより自然ですし、いつまでも後に残るものになると思います。

その意味で環境はとても大事、重要だと思います。また、ここにサンガの大きな役割、役目があると思います。龍谷大学に関係する全ての人間（サンガと呼んでいいでしょう）が、互いに互いを尊重し平等に扱いそして思いやりをもって接する事によって、特に学生は大変良い経験をし、感謝する気持ちを持つと思います。そして、これも龍大で学んだ学問とともに持って帰り広めてもらうことができれば素晴らしいと思います。『仏説阿弥陀経』という經典に出てくる、様々の色の蓮の花(青色青光 黄色黄光 赤色赤光 白色白光)のように、世の中の色々な人が独自性を保ちながら共生するために大きな貢献をできるのが仏教だと思います。

最初に申しましたように、ハワイ教団は10年ほど前に同性婚を認める運動に参加しました。アメリカでは徐々にLGBTQ+が認められるようになってきて

います。これを象徴するのがトイレ、お手洗いです。今、課題になっていることは、これまでの男女のみに分けたトイレの施設を、トランスジェンダーの人たちのためにどうアレンジするかです。また仏教青年会のメンバーの間でも、最近は自分をどう呼んでほしいかを示すようになっていきます。特にオンラインの時に自分の名前の横に『He/Him/His』『She/Her/Hers』『They/Them/Theirs』と表示することが多いです。

しかし誤解がないように申しますと、私が今日、話をしていることは決して何か大きなことをしなければならないということではありません。小さなちょとした思いやり親切が大切です。例えば留学生の場合、多くの方はまだ日本語力が十分でないため生活に困っている場合があると思います。私もそうでした。何でもないようなこと、例えば郵便を出すとかバスなどの交通機関を利用するとか、銀行の口座を開いたり、書類を記入したりすることなどは、自分の母国語や国でしたら簡単ですが、外国語や外国になると大変なことです。少し時間をかけて丁寧に教えてあげることによってぜんぜん経験が違ってきます。仏教の大学として世界各国の理解を高めるために異文化や異国から来ている学生が自分の文化などを紹介できるような機会や、違う国者同士が交流できる場がたくさんあれば良いと思います。互いを互いに知るための交流はとても大事だと思います。お互いがあまりにも知らない、わからないために不安や恐怖や誤解などに惑わされることが多い世の中だと思います。それをどうにかするためには、普遍的な環境が必要です。

今、かつて龍谷大学の学長をされていた上山大峻先生がこういう話をされたことを思い出しました。昔のシルクロードはあれだけの様々な色々な国や文化があっても人々が平和に安心して交わり得たことは仏教のおかげであったと言われたことを覚えています。仏教がそういう環境を作ったのだと思います。仏教の素晴らしい貢献だと思います。そういったことを継続して世界に発信していけないかと、私は常々思っています。

今日は本当にありがとうございました。